

スポーツ施設の再配置先パターンについて

1 第3回再検討部会での協議内容と今後のスケジュール

- 第3回再検討部会の目的は、前回議論を踏まえて設定した再配置先の抽出の観点に基づき抽出したプールの候補地（案）から、今後再配置先の評価を行うプールの候補地を決定します。
- プールの再配置先の抽出条件については、各委員のご意見を基に、表2のとおり設定しました。
- 第4回再検討部会（次回）では、今回決定したプールの再配置先の候補地について、第2回再検討部会で議論を行った再配置先の評価の観点（機能性やアクセス性、経済性、場所性、将来性、連携性、安心・安全性）から再配置先の評価を行う予定です。

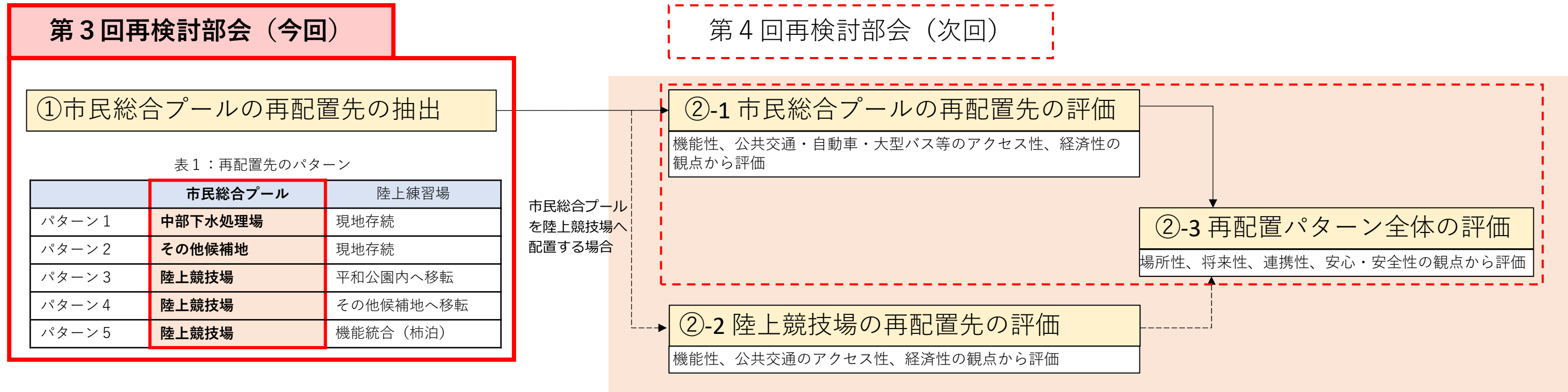
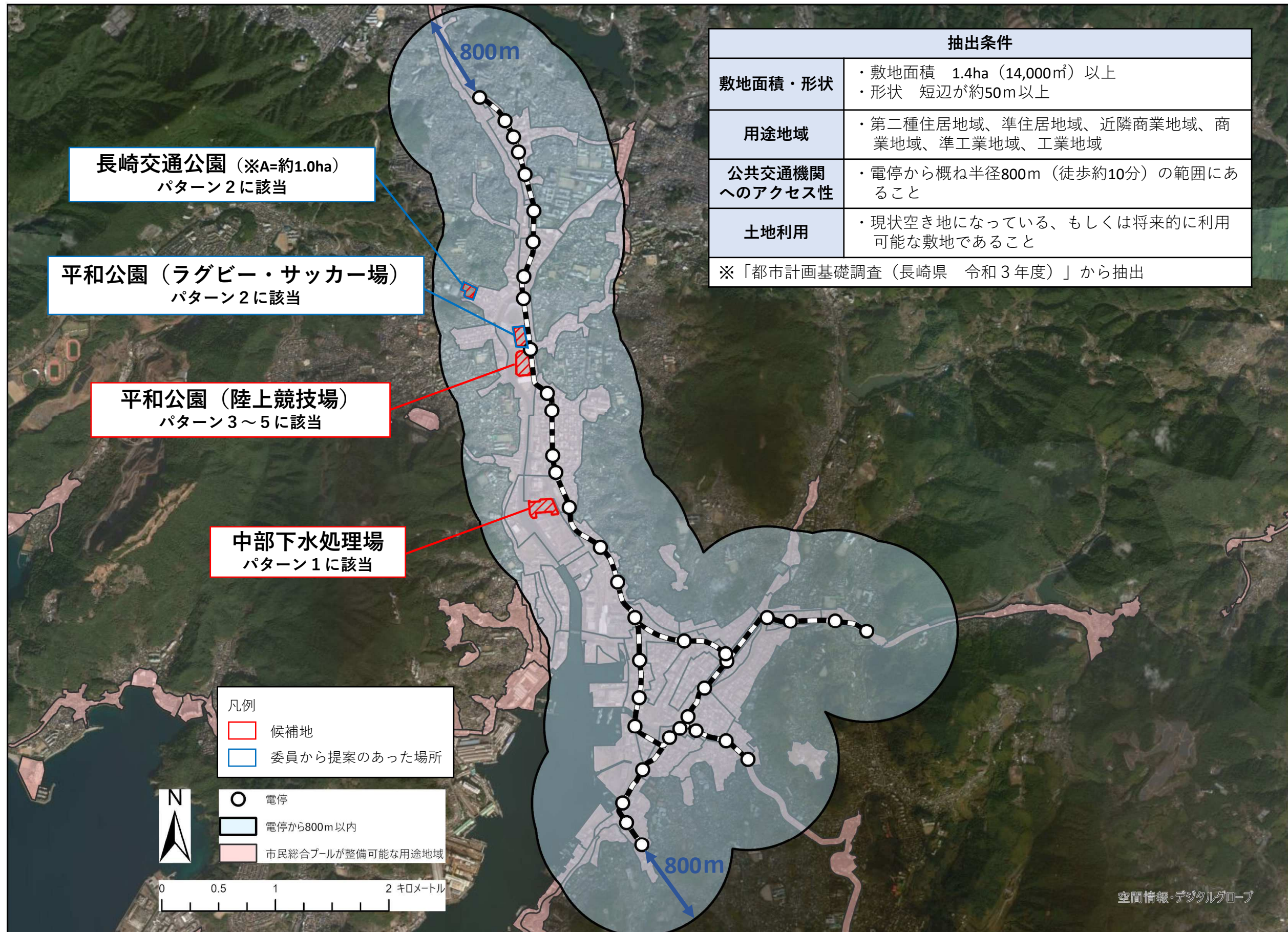


表2：候補地の抽出条件（全て満足することが必要）

再配置先の抽出の観点		市民総合プール
敷地条件	敷地面積・形状	<ul style="list-style-type: none"> ■敷地面積 <ul style="list-style-type: none"> ・1.4ha以上の敷地面積であること。（現状の市民総合プールと同程度の規模の場合） ■形状 <ul style="list-style-type: none"> ・短辺が約50m以上の敷地であること。（現状の市民総合プールや他都市のプールを参考に設定）
	用途地域	・建築制限上、建築可能な用途地域であること。（ 第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域に該当 ）
	土地利用	・ 現状空き地になっている、もしくは将来的に利用可能な敷地 であること。
公共交通機関のアクセス性		<ul style="list-style-type: none"> ・電停から概ね半径800m_※の範囲にあること。 <p style="font-size: x-small;">※第2回再検討部会では「現状と概ね同程度の公共交通のアクセス性を有している場所である」としていたが、第2回再検討部会での意見を受けて、範囲を拡大した。800m（徒歩約10分）という値は「長崎市地域公共交通計画」における鉄道駅の徒歩圏の定義を参照した。</p>

2 市民総合プールの再配置先の候補地の抽出

①市民総合プールの再配置先の候補地又は委員から提案のあった場所



2 市民総合プールの再配置先の候補地の抽出

②市民総合プールの再配置先の候補地又は委員から提案のあった場所の概要

市民総合プール				
種別	候補地		【参考】委員から提案のあった場所	
名称	中部下水処理場	平和公園（陸上競技場）	長崎交通公園	平和公園（ラグビー・サッカー場）
配置パターン	パターン1	パターン3～5	パターン2	パターン2
所在地	長崎市茂里町2-34	長崎市松山町1-3	長崎市油木町6-40（長崎県所有）	長崎市松山町2-4
位置図				
敷地条件	敷地面積	約2.7ha	約2.4ha	約1.0ha
	形状	長辺：231m 短辺：90m	長辺：244m 短辺：109m	長辺：119m 短辺：63m
	用途地域	商業地域	近隣商業地域	第一種住居地域
公共交通 アクセス性	(電停) 銭座町から約150m (バス) 銭座町から約190m	(電停) 平和公園から約80m (バス) 平和公園から約160m	(電停) 大橋から約450m (バス) 交通公園前から約30m	(電停) 平和公園から約80m (バス) 平和公園から約160m
懸念事項※1	<ul style="list-style-type: none"> ・軟弱地盤であり、杭基礎や地下構造物が存在しているため、整備費用が高くなる。 ・長崎スタジアムシティに隣接しており、交通混雑が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場が縮小する。 ・陸上の練習場所を移転・再整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1.4ha未満の敷地であり、整備条件に合わない。 ・現時点で廃止の予定はなく、再配置先として活用できるか不明である ・建築制限上、建築可能な用途地域ではない（建築審査会の同意が必要）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で廃止の予定はない。 ・ラグビー・サッカー場と地下駐車場の再整備費用（約62億円※）+撤去費用が発生する。（P5参照） ・ラグビーやサッカーと陸上の同時利用ができない。（陸上競技場への再配置は困難） ・ラグビーやサッカーの関係者と調整が新たに発生）。
懸念事項の種類	経済性 アクセス性	機能性	敷地条件	機能性 経済性 関係者との調整

※1懸念事項は、第2回再検討部会での意見に基づき設定（敷地条件、機能性、経済性、アクセス性、関係者との調整）

3 ラグビー・サッカー場への市民総合プールの再配置案について

課題1：経済性の課題

ラグビー・サッカー場と地下駐車場の整備に約62億円+α（撤去費用）の費用がかかる

(1) ラグビー・サッカー場の整備費

- ・ ラグビー・サッカー場にプールを再配置する場合、新たにラグビー・サッカー場を整備する必要が生じることとなる（整備費：約24億円※）
- ・ スタンドやナイター設備などの撤去費用も生じることとなる

※当時の建設費に物価上昇率1.35（H9⇒R5）をかけて算出



図1：航空写真

(2) 地下駐車場の整備費

- ・ ラグビー・サッカー場の地下には、松山町駐車場（地下246台）があり、それを存置したままプールを整備することはできないため、新たに駐車場を整備する必要が生じる（整備費：約38億円※）
- ・ 地下駐車場の撤去費用も生じる

※当時の建設費に物価上昇率1.35（H9⇒R5）をかけて算出



図2：地下駐車場の範囲

<施設規模>

- ・ ラグビー・サッカー場：約1.5ha
- ・ 松山町駐車場：約0.9ha
- ・ 市民総合プール：約1.4ha

課題2：機能性の課題

ラグビーやサッカーと陸上の同時利用ができない

(1) 利用上の課題

- ・ 安全上の問題により、ラグビーやサッカーと陸上の同時利用ができない

(2) 規格上の課題

- ・ サッカー場（107×70m）やラグビー場（124×78m）の規格は、400mトラックの内側に収まらない

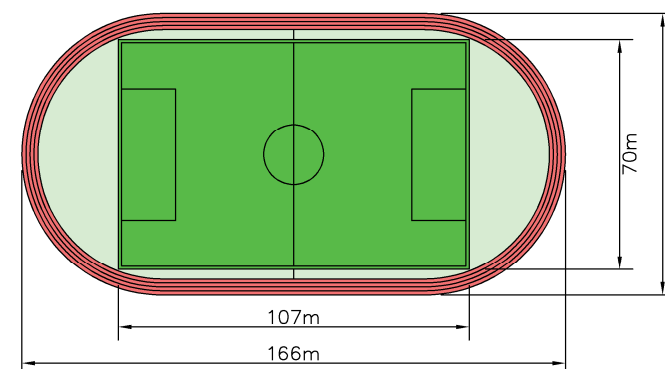


図3：400mトラックにサッカー場を配置

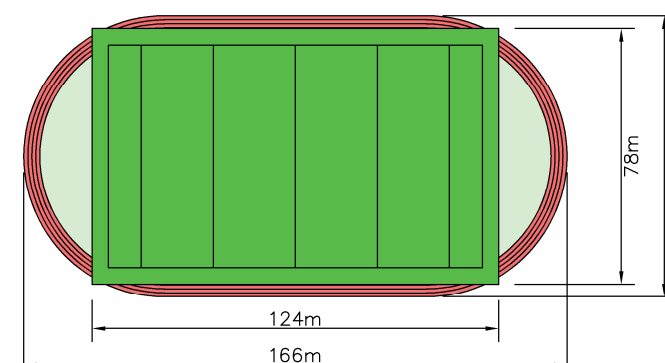


図4：400mトラックにラグビー場を配置



図5：堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター（ラグビーの芝生が400mトラックに影響）